

2020年度日本財団助成事業 完了報告書

事業名：子ども達への水辺の安全教育プログラムの推進
団体名：（公財）日本ライフセービング協会
事業完了日：2021年3月31日

1. 事業内容

1. ジュニア教室及び器材整備
 - (1) 時期：2020年5月～2021年3月
 - (2) 場所：全国海水浴場等
 - (3) 対象：小・中学生
 - (4) 内容：Water Safety（セルフレスキュー等）
2. ライフセービングサポーター講習会
 - (1) 時期：2020年4月～2021年3月
 - (2) 場所：学校、スポーツ施設（体育館、プール）、民間スポーツ施設等
 - (3) 対象：小・中・高校生・社会人
 - (4) 内容：BLS（CPR+AED）、Water Safety等
3. 指導員養成プログラムの実施
 - (1) 時期：2020年5月～2021年3月
 - (2) 場所：全国6ヶ所（関東/関西/九州/その他）
 - (3) 指導員養成講習会
4. 教育プログラムの構築
 - (1) 時期：2020年4月～2021年3月
 - (2) 内容：ITC教育用プログラムの開発

2. 事業内容詳細：

子どもたちへの水辺の安全教育プログラムの推進～e-Lifesavingの制作と実践 2020年度報告資料～

3. 事業成果物；

- (1) 資料A ジュニア教室及び器材配備報告
- (2) 資料B ライフセービングサポーター講習会報告書
- (3) 資料C 指導員養成プログラムの開催報告書
- (4) 資料D ジュニアテキスト等及びITC教育用プログラム製作物報告書

資料 A

1. ジュニア・ライフセービング教室及び器材整備

● 実施概要

- 2018 年度「ジュニア実態調査」を踏まえ、防災教育を実施してきた全国のライフセービングクラブに募集を行った。クラブには下記の考えを基に企画の計画、運営を行ってもらった。
 - ◇ ①今夏、ライフジャケット未着用の溺水事故が目立ったことを受け、ライフジャケットの重要性や着用時の「安全姿勢」「グループサバイバル」「助けてサイン」等の周知を図る。
 - ◇ ②ビーチクリーンとビーチコーミングを通じて、思い出の工作活動を実施することで、海的环境に対する気づきと、より安全な浜辺への意識を高める。
 - ◇ ③海浜活動中の地震、津波、避難のフローを各防災マップより、シミュレーション訓練を実施する。ライフジャケットを着用しての避難の重要性や避難経路、避難場所までの道のりを体験から学ぶことで、防災意識を高める。さらには津波フラッグへの周知を図ることで、海浜活動への安全知識と実践的行動を理解する。
 - ◇ ④浜辺でのビーチラン（ビーチリレーやビーチフラッグス体験等）や、体を動かすレクリエーションを通じて、砂浜で素足になり活動することで得られる爽快感や“走りにくさ”を実感し、親子やお友達同士の親睦を図る。また前段で実施するビーチクリーンの重要性への理解を生む。
- 対象：小学生・中学生、場合によってはその保護者
- 場所：各クラブの活動浜またはプール、学校施設等
- 目標：全国 10 ヶ所で 300 人
- 支援物件：
 - (ア) ライフジャケット：10 着
 - (イ) ジュニア用ラッシュガード：30 枚
 - (ウ) ジュニアテキスト：30 冊
 - (エ) ビーチかるた：1 セット
 - (オ) 水辺の安全啓発用クリアファイル：30 枚
 - (カ) 掲出用ポップアップバナー：1 セット

● 実施報告

No	開催日	主催	会場	参加者数
1	2/20	盛岡 LSC	遠野市民センター研修室 遠野市民プール	15
2	2/28	静波 LSC	静波海岸 静波 LSC クラブハウス	8
3	3/7	鹿嶋 LGT	平井海水浴場	4
4	3/13	館山 SLSC	館山市北条海岸 館山サーフクラブ大賀寮	28
5	3/20	小樽 LSC	野幌総合公園運動場 講習室 同会場プール	13
6	3/21	天橋立 LSC	静の里温水プール	13
7	3/28	勝浦 LSC	勝浦中央海岸 勝浦市墨名区 区民間	28
8	3/28	湘南ひらつか LSC	湘南ひらつかビーチパーク	21
9	3/28	若狭和田 LSC	若狭和田ビーチ 若狭和田公民館	3
				133

- 得られた成果
 - 『防災』を意識したプログラム、特に気象庁と連携して周知に取り組んでいる津波フラッグを積極的に導入することができた。また、実施時期が2～3月であったがプログラム内容を工夫することで、子どもたちに命と向き合える時間を創出することができた。
- 成功要因
 - 各クラブの開催意欲・防災意識が高かった。また、支援した物件について、現場が必要としている物にマッチしていた。
- 失敗要因
 - 1個所につき30名を想定していたが、やはり時期的な要因もあり目標を達成できなかった。



器材整備

- 目標
 - (1) ライフジャケットの配布 < 100着=10着×10ヶ所 >
 - (2) Jr用ラッシュガードの配布 < 300枚=30枚×10ヶ所 >
 - (3) Jrテキスト < 2000冊 >
 - (4) ビーチかるた < 10部 >
 - (5) 水辺の安全啓発クリアファイル < 20000枚 >
 - (6) Jr教室掲出用ポップアップバナー < 10部 >
 - (7) ライフセービングサポーター修了証 < 20000枚 >
- 実施結果
 - (1) ライフジャケット：9ヶ所×10着=90着
 - (2) Jr用ラッシュガード：9ヶ所×30着=270枚
 - (3) Jrテキスト：1280冊配布（ジュニア教室900冊、その他の事業380冊）
 - (4) ビーチかるた：9部を配布
 - (5) 水辺の安全啓発クリアファイル：300枚を配布（ジュニア教室に270枚、その他の各種事業等に30枚）
 - (6) Jr教室掲出用ポップアップバナー：9部を配布
 - (7) ライフセービングサポーター修了証：2,111枚（BLS/1,535枚、WS/576枚）を配布。
- 得られた成果
 - ジュニア教室で配布した器材は、子どもたちだけではなく保護者の目にもとまり、防災および水辺の安全啓蒙の一助となった。コロナ禍ではあったが各種イベントを通じて一定の配布ができた。
- 成功要因
 - 今回初めて製作したジュニアラッシュガードは、視認性も高く子どもたちも喜んで着用していたようだった。安全にプログラムが進められることと、再体験の気持ちを高めてくれる効果を感じている。クリアファイルは子どもだけではなく、保護者もターゲットにしており、水辺の安全啓蒙の広がりに繋がった。
- 失敗要因
 - コロナウイルスの影響により事業変更を余儀なくされたため、安全啓発用のクリアファイルを十分に配布出来なかった。2021年も継続して配布を行い、多くの国民の目に触れるように工夫していきたい。

資料 B

2. ライフセービングサポーター講習会（体験講習会）

- 目標
 - BLS (GPR+AED) 講習 100 ヶ所 × 50 人 = 5000 人
 - Water Safety 講習 100 ヶ所 × 50 人 = 5000 人
- 実施結果
 - BLS (GPR+AED) 講習 19 ヶ所 1,535 人 により達成できなかった。
 - Water Safety 講習 14 ヶ所 576 人 により達成できなかった。
- 実施報告

	2020 年		2019 年		2018 年		2017 年		2016 年		2015 年	
	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数
BLS	19	1535	79	5420	88	6907	79	5744	86	6240	113	7502
Water Safety	14	576	86	9117	50	4578	60	7330	42	5972	45	6505
合計	33	2111	165	14537	138	11485	139	13074	128	12212	158	14007

- 得られた成果
 - コロナ禍であったため、開催数、発行数ともに大幅な減少となった。一方で、このような状況下でも開催依頼があることを考えると、感染対策を講じた上で実施していく意義のある取り組みである。ライフセービングサポーター講習会は、資格認定講習会とは異なり、体験・啓発型の講習会として依頼者のニーズに合わせて時間や内容をカスタマイズできる普及講習会であるため、指導員やライフセービングクラブが地域連携を図れる貴重な機会となっている。
- 成功要因
 - JLA指導員には学校教員が多く、感染に留意しながら開催となった。また、ICT教材を活用した初めてのリモート開催によるウォーターセーフティプログラムを実施できた。実績数は例年に届かないが、新たなチャレンジにより開催形態を増やすことができたのは大きな成果といえる。
- 失敗要因
 - 体験型の講習会であるため、感染症のリスクが高い情勢下では敬遠される傾向が強かった。ICT教材を使ったプログラムであればこのリスクは低減できるため、指導者に対する教材活用の周知を徹底していきたい。



資料C

3. 指導者養成プログラムの実施

- 目標
「指導員養成講習会」の開催
- 実施結果

【BLS 指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2020年	10月24日、25日、31日、11月1日	9:00~17:00	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）	6
2020年	11月20日、21日、22日、23日	9:00~17:00	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）	14
2020年	12月5日、6日、12日、13日	9:00~17:00	キャンパスプラザ京都 （京都市下京区）	7
2021年	1月9日、10日、16日、17日	9:00~17:00	三保研修会館 （静岡県静岡市）	8
2021年	1月23日、24日、30日、31日	9:00~17:00	神崎校区公民館 （大分県大分市神崎）	3
			合計	38

【ウォーターセーフティ指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2020年	8月8日、9日	9:00~17:00	横浜市立釜利谷南小学校 （神奈川県横浜市）	2
	11月20日、21日	9:00~17:00	北谷公園水泳プール （沖縄県北谷町）	4
	12月19日、20日	9:00~17:00	静の里温水プール （京都府京丹後市）	10
	2月6日、7日	9:00~17:00	東京都内のプール （東京都）	8
	3月13日、14日	9:00~17:00	大分市スイミングスクール光吉校 （大分県大分市）	3
	3月26日、27日	9:00~17:00	静岡県富士水泳場 （静岡県富士市）	8
			合計	35

【サーフライフセービング指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2020年	9月20日、21日、22日	9:00~17:00	三浦海岸 （神奈川県三浦市）	4
2021年	3月27日、28日、29日	9:00~17:00	渡嘉敷島とかしくビーチ （沖縄県渡嘉敷村）	4
			合計	8

【プールライフガーディング指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2020年	11月7日、8日	10:00~18:00	静岡県立水泳場 (静岡県静岡市)	6
2020年	11月1日、22日	9:00~18:30	北谷公園水泳プール (沖縄県北谷町)	5
2020年	11月7日、21日、22日	9:00~17:00	プリDESTンスイミングスクー ル宗像(福岡県宗像市)	5
			合計	16

【RWC(Rescue Water Craft)指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2021年	3月6日、7日、8日、9日	9:00~17:00	静岡県立水泳場 (沖縄県中城村)	4
2021年	3月19日、20日、21日、22日	9:00~17:30	森戸海岸 (神奈川県葉山町)	
			合計	4

● 得られた成果

➢ 「指導員養成講習会」

- ◇ BLS指導員養成講習会 38名
- ◇ ウォーターセーフティ指導員養成講習会 35名
- ◇ サーフライフセービング指導員養成講習会 4名
- ◇ プールライフガーディング指導員養成講習会 16名
- ◇ RWC指導員養成講習会 4名
- ◇ 合計 97名(2019年度は53名)

● 成功要因

- コロナ禍の影響により、他事業(特にスポーツ)の開催が中止になったが、これを好機ととらえ例年より早い時期から指導員養成講習会の開催を手掛けた。これにより、開催数も増え合格者数も増加となった。

● 失敗要因

- 都道府県協会での開催の場合の運営マニュアルの充実、資器材の支援がさらに必要である。

【BLS指導員養成講習会】



【ウォーターセーフティ指導員養成講習会】



【サーフライフセービング指導員養成講習会】



【RWC指導員養成講習会】



4. 教育プログラムの構築・ITC教育用プログラムの開発

(1) 目的

全国の子どもたちに対し、海への接点、関心を深めていくプログラムを展開する上で、安全教育の質を高めていくことは極めて重要である。水辺活動や教育を推進している行政、学校、民間団体等とも連携を図り、多面的かつ柔軟に安全教育を推進していく。
新しい学習指導要領がスタートするこの機に、ICT教育との連動を図った革新的な一歩として、水辺の楽しさ、安全を正しく広げ、理解し、身につくプログラムやコンテンツの開発を行い、体験学習の教材として活用することで、水辺の溺水事故防止に役立てていくことを目的とする。

(2) 目標

前提：2020年度は小学校学習指導要領が完全移行し、特に水泳授業においては「安全確保につながる運動」が取り入れられる重要年度である。

《教育プログラム》

- (ア) 水辺に関わる他団体と連携し「子どもたちへの安全に関する知識と技能習得」を目的としたICT教育の導入・展開に向けた研修会（指導者や教育向け）を全国20か所で実施していく。
- (イ) 小学生、中学生約1万人を目標に実施、教師や指導者側のヒヤリング調査をおこなう。
- (ウ) 新たな教育の軸として「離岸流」にフォーカスを当て、コンテンツの拡充を図る。

(3) 2020年度事業の方向性

小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を引き続き柱とし、コンテンツの拡充を図った。広報活動と実践教育を積み重ねていくことにより、教材としての認知を広め、利用価値と今後の可能性を高めていくことができた。また課題としていたレスポンス対応も、システム上の編集を終え、2021年4月より備わった。 [資料D P3～P23 参照]

(4) 2020年度検証と今後の課題

コロナ禍における動画撮影、授業実践、その検証は非常に困難であった。しかし、ウェブを活用した打ち合わせやセミナー展開、広報の充実につながったことでe-Lifesavingの周知や可能性をより実感することができた。約1万人の子どもたちの元へ、実践指導を通じて届けることを計画していたが、コロナ禍で学校運営自体が圧迫され（休校、分散登校、授業確保、短縮授業等）、現場も感染症対策などで疲弊している中、思うようなコミュニケーションが図れなかったことは残念であるがやむを得ない。しかしその分、教育関係者向けの研修動画や、他団体連携、積極的なメディア活用を図ることで、より多くの発信に繋げることができた。2020年度は31,895人を越えるユーザーに届け、ページビュー265,958を記録できたことを成果とし、今後もコンテンツ拡充を柱に「水辺の安全」を担う公的救助機関等との連携を図りながら、さらなる広がりや展開を目指したい。

[資料D P43～P52 参照]

(5) 事業の成果物

水辺の安全に関する知識と技術習得のためのICT教育コンテンツ

名称 JLA e-Lifesaving

<https://elearning.jla-lifesaving.or.jp/>

[資料D P24～P42 参照]

重点5 地域の実績と計画

各事業について、2020年度に実施できた地域は2021年度も継続的に実施し、官公庁や自治体、公的救助機関との連携により、水辺の事故防止教育および防災教育の拡充に努めます。一方、Covid-19の影響等により実施できなかった地域は、2021年度に実施できるように進めてまいります。

表-1 重点5 地域の2020年の実績と2021年の計画

海水浴場	ジュニア教室	サポーター講習	指導員養成	ICT教材を用いた指導 ^{※1}
千葉県 御宿中央	☑ 県内実施 (館山、勝浦にて)	2021年度実施予定		
神奈川県 藤沢・鎌倉	☑ 県内実施 (平塚にて)	☑ 鎌倉にて実施	2021年度実施予定	☑ 藤沢、平塚にて実施
静岡県 静波・相良	☑ 静波にて実施 2021年も継続実施	2021年度実施予定	☑ 県内実施 (静岡、富士にて)	
福井県 若狭和田	☑ 若狭和田にて実施 2021年も継続実施	2021年度実施予定		
宮崎県 青島		2021年度実施予定	2021年度実施予定	

※1 オンラインを用いて全国的に展開。藤沢、平塚での実施実績については、現地へ訪問しスイミングスクールの生徒や学校生徒を対象に実施。